

頭巻 特集 組合紹介

宮島細工協同組合

『宮島細工』を後世へ 承継するために

理事長

広川 和男 氏

宮島細工の歴史と現状

宮島に厳島神社を建設するために、鎌倉・京都から宮大工や指物師が招かれ、その技術の流れをくむのが現在の宮島細工です。江戸末期には、杓子を始めとして、ロクロ細工、割物（くりもの）細工、宮島彫りなど、日常生活に使用されるものが幅広く製作されていました。

やがて優れた芸術性を持つ工芸品へと進化した宮島細工は、昭和57年に経済産業大臣指定伝統的工芸品として認定され、現在も宮島彫、ロクロ細工、杓子が伝統工芸士により製作されています。

昭和53年12月、宮島細工の生産者31人が共同で原材料の共同購買、商品の共同販売及び伝統的工芸品の指定を受けること等を目的に組合を設立しました。

しかし近年、生活スタイルの欧米化や食器洗い乾燥機の普及等ライフスタイルの変化により売上は伸び悩み、同時に後継者育成も思うように



進んでいません。現在組合員は13人にまで減少し、伝統工芸士の平均年齢は70代と高齢化が進んでおり、このままでは『宮島細工』がさらに衰退していくばかりです。

ニーズに沿ったモノづくりを

昨年、宮島への観光客数が過去最高となり、特に外国人観光客の増加が目立っています。当組合の共同販売施設である「宮島伝統産業会館」への来館者も外国人、特にフランスな

どのヨーロッパからの観光客が多く、購入されるのもヨーロッパの方がほとんどです。

組合としてはこのヨーロッパからの観光客をターゲットに、一昨年度から2年間、中央会の支援事業を活用し、今後の組合としての戦略を考え、その上で英語版のWeb構築、パンフレットの制作及び伝統産業会館への誘導横断幕の制作を行いました。また同事業では、製作者である職人のこだわりや人となりを伝えるため、伝統工芸士や製造現場等の動画配信を行うとともに、伝統産業会館のPOP改良も行いました。

さらに、ヨーロッパからの観光客等を対象にしたアンケート調査において、現代のライフスタイルにあった「日常使いの出来る商品」を求める声が多くあったことから、欧米化した生活スタイルの中でも使いやすい新商品の開発を行いました。その成果として「宮島の四季の花」の筋彫りをあしらひ、表面にオリーブオイルを塗り色止めすることで、安全に普段使いの出来る食器を開発しました。さらに事業を実施する中で、伝統工芸士自ら漆器に螺鈿を施した器の

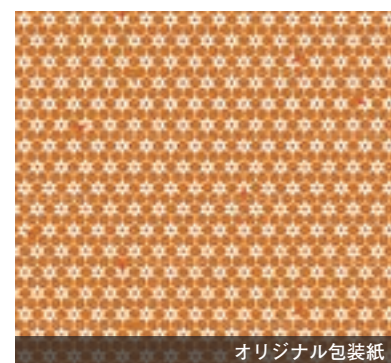


開発を考案するなど、今までにない商品への開発意欲がフツフツと湧き起こっています。

「宮島細工」のブランド化戦略

宮島への観光客の増加に伴い、島内土産品店では大量生産された海外産の木工品が多く販売されており、違いがわからない観光客は安価な商品に流れていく傾向があります。そこで、本物の木のぬくもりや使い心地の良さを知る“ファン”を増やすため「宮島細工」の認知度を高める取り組みを行っています。

以前は商品の包装に既製品を使用していましたが、他の安価な商品との区別がつかず、宮島細工の存在をアピール出来ていませんでした。そこで、今年度も中央会の支援により、他の類似木工製品との差別化を図り、宮島細工の存在感を高めるため、組合オリジナル包装紙を作成しました。包装紙は、木をイメージした茶を基調に、白い杓子を花模様のように並べることで宮島らしさを表現しま



オリジナル包装紙

した。不規則に赤い杓子を配することで遊び心を持たせると同時に、デザインにやわらかさを加えています。大小様々な商品があるため、包装したときの絵柄の出かたにもこだわり、デザインを決定しました。

今後は「宮島伝統産業会館」の装飾やHPデザインなどを同包装紙のデザインに統一することも検討しており、包装紙デザイン＝(イコール)宮島細工であると消費者に認知してもらいたいと考えています。さらに来年度は、ラッピング用手提げ袋のデザインも統一する予定です。

変化こそが伝統を守ること

全国各地の伝統工芸品産地の置かれている課題は、概ね後継者不足と売上減少ではないかと思われます。ご多分に漏れず、ここ宮島細工の抱える課題も、後継者不在と売上の低迷です。

しかし、我々宮島細工に携わるものは、現状に手を拱いているだけではなく、匠の“技”を活かした新たな挑戦を始めています。変化していく世間のニーズにあわせて作るモノを



変化させ、稼げるモノづくりをしなければ伝統工芸を後世に伝えることはできないと考えます。そのためには芸術家でありながら職人であることを強く意識するようになりました。世間のニーズに沿い、かつ対価を得ることが出来るモノを仕上げていくことが求められているのです。

最近の私たちの取り組みも、Webサイトの更新に始まり、少しずつですが宮島細工の認知も上がり新たな仕事を受注することが出来つつありますし、宮島彫教室に通われた卒業生からも商品を製作できる人材が育っています。今後、こうした新たなチャレンジが後世に渡し伝統を守ることに繋がると信じ、着実に取り組んでいきたいと思っています。

宮島細工協同組合

廿日市市宮島町1165-9
宮島伝統産業会館内
TEL・FAX: 0829-44-2912
HP <http://www.miyajimazaiku.com/>

